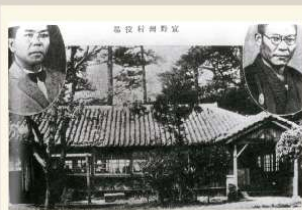


宜野湾の歴史

宜野湾市の中央部に位置し、ジノンドゥムラ(宜野湾同村)とも呼ばれます。1671(康熙10)年、宜野湾間切が新設された際に間切番所が置かれました。



【間切図】沖縄県立博物館・美術館所蔵



【宜野湾村役場】

『写真集ぎのわん』より転載



【ジノノムラ】

東京大学総合研究博物館所蔵

1879(明治12)年の廃藩置県により、沖縄県宜野湾村となりました。新たに村役場・小学校・郵便局が設けられ、村行政の中心地となりました。東西南北への道が交差し交通の要所でもあったことから、広く近隣村にまで及ぶ農海産物の集散地でもありました。また、立派なウマイ(馬場)があり、ンマサブ(馬勝負)が賑やかに催されました。ウマイに隣接して、マチグラー(市場)があり、野菜やイモなどの食料品が売られていました。マチヤ(商店)・飲食店・宿屋・風呂屋などがあり、普天間と並ぶ大きな集落でした。

集落西側にはジノナンマチ(宜野湾並松街道)があり、美しい松並木がありました。松の落ち葉は、焼き付けに重宝したことから、子どもたちが拾っていたので、道は掃除をしたように綺麗であったそうです。

集落はメーダカリ(前村渠)とクシダカリ(後村渠)に分けられていて、チナヒチ(綱引き)はこれらの組分けで行われました。クシダカリの東側は、とくにウインダカリ(上村渠)と呼ばれ、集落発祥の地であるとされています。



『字宜野湾戦前 集落イメージムービー』より転載

【宜野湾の行事】

行事は全て旧暦により行われました。2月2日の腰懸い、3月3日の三月、6月25日の綱引き、7月十五夜のエイサー、8月10日のシマクサラシは現在も継承されています。毛遊びも盛んで他の集落より長く、開戦直前まで行われました。踊りの始まりには三線に合わせて空手の型を舞踊風に踊る舞方で嘉例をつけました。現在は舞方の保存会があり、綱引きやお祝い事で継承されています。また、字宜野湾が最も力を入れていた祭りは綱引きで、2007(平成19)年7月29日に66年ぶりに復活されました。



【メーカタ】



【サングワチャー】



【綱引き】

宜野湾の文化遺産



1 クシヌウタキ(後の御獄)

普天間飛行場内にある拝所です。破損しましたが、ほぼ原形に修復しています。大和旅を無事に終えた宜野湾王子から、寄進された石灯籠もあります。綱引きの御願で拜む拝所の一つです。



2 宜野湾メーヌカー古湧泉

メーヌカーは、ウプミジ(産水)としたので、ウプガー(産泉)とも呼ばれます。チャシ(屋号)の先祖チャシヌヒヤが掘った泉と伝わります。戦前建立の石碑も遺っています。



3 はらから之塔

1968(昭和43)年1月に工事費284ドル74セントをかけて建立。塔名の「はらから」とは、「お互いに同胞で兄弟姉妹」という意味で、住民から公募しました。塔には、第二次世界大戦での字宜野湾出身戦没者241柱の名前が刻銘されています。(沖縄県「平和の礎」調査では353人と報告)。塔の管理は、1979(昭和54)年に自治会から郷友会へと移管されました。郷友会では毎年7月に慰霊祭を行っています。



4 ノロ殿内

ノロ火の神とムラ火の神、土地の守り神が安置されています。嘉手刈(屋号)が殿と一緒に管理しています。

字宜野湾の年中祭祀 / 市登録無形民俗文化財



7 シマクサラシ ★…拝み場所

旧暦8月10日に、集落の入り口6か所で行われる疫病回避の御願です。戦前までは、ヒジャイナー(左向きに擦った綱)をばり、牛の骨を下げました。つづした牛の肉は、住民に配られました。



6 ウプガーのカーサレー拝み

旧暦6月25日に行われた湧き水の清掃と、代表者による御願です。現在は25日以後の日曜日に、郷友会が基地内に入り、カーサレーを行います。御願は、同日の綱引き御願で、その拝所の一つです。



5 土帝君

石嶺(屋号)の先祖が、中国から勧請したと伝わります。昭和初期に男神像、沖縄戦で女神像が失われましたが、1984(昭和59)年、新神像の遷座祭を挙行しました。例祭は旧暦2月2日です。

【宜野湾の戦後から今】

沖縄戦が南部で熾烈を極めていた1945(昭和20)年6月、アメリカ軍により集落の大半が破壊され、普天間飛行場の敷地として接收されました。1947(昭和22)年、宜野湾の人びとに居住許可が下りました。しかし、飛行場敷地内に屋敷のあった人びとは、帰ることができませんでした。

戦争は終わりましたが、1948(昭和23)年8月、拉致目的で集落に侵入したフィリピン兵により住民が銃殺される悲しい事件がありました。字では、自警団を結成して24時間体制で警備を行っていたという歴史もあります。

かつての農地は、住宅地に姿を変えて市街化が進んでいます。ほとんどの土地が飛行場内にあり、住民の希望である「故郷に帰ること」が叶っていません。



『ぎのわんの地名』より転載

宜野湾のあゆみ

西暦	年号	出来事
1609	万暦37	薩摩侵攻
1644	順治元	尚賢王、普天間参詣を始める
1671	康熙10	宜野湾間切、新設(それまで宜野湾村は浦添間切)
1734	雍正12	宜野湾村の津波、優れた親孝行により王府より表彰される
1737	乾隆2	乾隆大御支配(元文検地)はじまる
1791	乾隆56	同年の銘のある寄進灯籠一対がクシヌウタキにある
1803	嘉慶8	同年の銘のある寄進灯籠一対がクシヌウタキにある
1847	道光27	英国人医師ベッテルハイム、中城から宜野湾番所を経て那覇へ帰る
1872	明治5	明治政府が琉球王国を琉球藩とする
1879	明治12	琉球処分により琉球藩を廃して沖縄県設置
1881	明治14	中頭役所、美里間切から宜野湾村の宜野湾間切番所へ移転
1882	明治15	宜野湾小学校(のちの宜野湾尋常小学校)、宜野湾村に開校
1896	明治29	沖縄県下で郡区制を実施、宜野湾間切は中頭郡に所属
1900	明治33	宜野湾馬場で中頭郡内の名馬による競馬を開催
1902	明治35	普天間街道、開通式/宜野湾尋常小学校に高等科設置
1908	明治41	沖縄県及島嶼町村制、宜野湾間切は宜野湾村となり、宜野湾村は字(あざ)宜野湾となる
1916	大正5	この頃から旧習俗改善の可否をめぐるシルークルー闘争が始まる
1924	大正13	この頃から政治的対立をめぐるシルークルー闘争が始まる
1932	昭和7	「宜野湾街道ノ松並木」、国天然記念物に指定
1939	昭和14	第二次世界大戦、勃発
1941	昭和16	宜野湾尋常高等小学校、宜野湾国民学校となる
1944	昭和19	宜野湾国民学校の学童疎開者が宮崎県へ出発
1945	昭和20	米軍、宜野湾周辺まで進攻(4/4)/普天間飛行場の建設開始(6月)
1948	昭和23	野嵩南初等学校が宜野湾初等学校となる(4月)/フィリピン事件(8月) 宜野湾村に行政区を設置、字宜野湾は宜野湾区となる(10月)
1949	昭和24	宜野湾劇場、開場(4年後に閉館)
1951	昭和26	宜野湾小学校となる
1953	昭和28	字宜野湾闘牛組合、結成
1957	昭和33	区立幼稚園、開園(4月)/公民館落成祝賀会(12月)
1960	昭和35	区民所有の畑に米軍ヘリ墜落(1月)
1961	昭和36	高等弁務官資金でメーヌカーに簡易水道施設を設置(6月)
1962	昭和37	宜野湾市誕生
1963	昭和38	普天間飛行場にフェンス設置
1968	昭和43	慰霊碑「はらから之塔」建立(1月)/上水道の給水開始(2月)
1970	昭和45	黙認耕作地の出入口が閉鎖される
1972	昭和47	本土復帰/沖縄国際大学、開学/ 沖縄国際大学の建設現場に米軍機の燃料タンク落下
1978	昭和53	字宜野湾郷友会、設立
1979	昭和54	宜野湾区公民館、竣工
1982	昭和57	志真志小学校、開校(4月)
1984	昭和59	土帝君を整備、遷座祭を挙行
1988	昭和63	『ぎのわん 字宜野湾郷友会誌』発刊
1989	平成元	「はらから之塔」銘板修復工事完了
2000	平成12	こども会、結成
2001	平成13	マータクドー広場の整備工事完了
2004	平成16	沖縄国際大学に米軍ヘリ墜落
2006	平成18	旗頭入魂式/創作市民劇「じの一人産泉」上演
2007	平成19	大綱引き、66年ぶりに復活
2009	平成21	『写真集 じの一人どーむら』発刊
2011	平成23	宜野湾小学校開校130周年記念式典
2014	平成26	「字宜野湾の年中祭祀」市登録無形民俗文化財に登録
2020	令和2	宜野湾市、人口10万人を超える